

新潟民商

新潟民主商工会
新潟市中央区西樋3丁目10-14
電話 (243) 0141
12年10月1日

消費税増税中止！民商を強く大きくする秋の1万人対話運動！

一万人対話運動を

秋の運動で会内外の方一万人の対話を目指す運動を呼びかけます。「増税中止署名」「民商宣伝リーフ」を仲間に渡して対話しましょう。会員商品券による顕彰を検討中です。会員商品券は、会員の協力店で使えるようになります。

増税されたら生きていけない

増税中止の署名を一会員一〇名目標で

「増税されたら商売止めないとだめだ」の声が集まりで出されています。増税は二〇一四年四月から。増税実施まで必ず衆院選、参院選があります。民主・自民・公明の増税連合に厳しい審判を下す世論をつくりましょう。

一〇〇署名突破に五〇〇円の会員商品券(予定)

民商を強く大きくしよう

◆商工新聞や入会を勧めたい方を「知り合い紹介カード」で紹介三名

五〇〇円の会員商品券(予定)

◆商工新聞読者二名拡大で

五〇〇円の会員商品券(予定)

◆会員拡大一名

一〇〇〇円の会員商品券(予定)

一万人対話運動・会員商品券協力店を近日中に募集開始

会員商品券の取り扱いをしてくれる協力店を募集します。近日中に募集申し込み書を作成します。



輸出大企業に何兆円も消費税還付って何だ！

各地で消費税増税、国税津速報の学習会

西地域

「商売繁盛！夢を語ろうナイスタイムIN坂井輪」は、第四回目として、税金学習会を開きました。山田政実副会長（西内野支部）のあいさつの後、藤崎副会長が輸出戻し税で輸出大企業に何兆円もの税金を戻しているなどを告発しました。その後事務局から国税通則法改悪の内容とそれに対応した「新版・納税者の権利」パンフに沿った学習をしました。

第二回・拡大推進委員会開催

九月二十三日（日）第二回目の拡大推進委員会が開催され各支部、婦人部、青年部から総勢二十名が参加して活発に意見交換を行いました。第一部では参加者全員での読み合わせを行った後、秋の運動1万人対話が提起されました。参加者からは拡大への取組みの経験や工夫、疑問などが活発に出され「民商で商売を伸ばそう」「民商の活動をしっかりと理解してもらうことが大切」などの意見が出されました。第二部の昼食を兼ねての懇親会では浅野青年部長が営む焼肉屋さんで会場を移しボリューム満点の料理を食べながらざっくばらんに交流し会い笑顔の耐えない懇親会になりました。



浅野青年部長のお店で懇親会

民商の要請を受け入れ、市側は強権的な徴税はしないと約束！

9月20日に新設された新潟市債権管理課との交渉が行われました。

これは、やむを得ず市税や国保料を滞納してこれまで分納してきた人に対し、同課が突然期限を設けて一括払いを迫ってきたことによるものです。送られてきた「催告書」には期限までに完納されなければ差押えをすると書かれています。

「いままで分納の約束をして毎月払っていたのに、課が変わったからといって突然一括払いを迫るのは許せない」と民商に多数の相談が寄せられました。

当日は当事者6名を含め役員・事務局12名で債権管理課との交渉に臨みました。市側は課長と課長補佐が対応し、課長が今回、市税、国保料、介護保険料、保育料、市営住宅家賃、母子福祉資金貸付など12の市債権を管理することになったと説明。新潟民商は高橋会長名で、「これまでの経過を踏まえた相談」と「実情をよく聴いて、納税緩和措置の説明もする」ことを中心とした要請書を渡しました。

これに対し、課長は、「お送りした文書は一律に一括払いを迫るものではなく、課での相談を通じて支払いをお願いしている。いろいろ考慮して、支払ってもらうためのお手伝いをしたい」などと述べましたが、交渉参加の当事者からは、「10日に相談に行ったが、対応した担当職員からは、自宅を任意売却すれば一括で納入できるとか、息子や娘にも相談して金を出してもらえばいいなどと散々な事を言われた。課長さんの話とはまるで違う」との声が上がり、また「差し押さえをするという通知が来てから夜も眠れなくなった」、「支払わせるための脅迫ではないか」という抗議が出されました。

課長は「過去の分納の件や事情も汲んで相談を受けていきたい。過払請求ができる事案があればそれも提案していきたい」と述べました。

野沢事務局長が「私たちの要請を受け入れるということですね？」と念を押すと市側はこれを認めました。後日、要請に沿って個別に相談が行われることになりました。



全国業者青年交流会・報告会開催

九月二十一日（金）、九月十六、十七日に宮城県で開催された全国業者青年交流会の報告会を開催しました。全国交流会への参加者八人を含め十二人が参加し、参加者から二日間の交流会で学んだこと、感じたことを報告し、交流しました。会場はこの九月にオープンしたばかりの青年部副部長・横山さんの喫茶店。全国交流会のビデオを見て、美味しいコーヒーとケーキを楽しみながらの和気あいあいとした報告会となりました。

一日目の福島・宮城の業者青年をパネリストに迎えた全体会・名刺交換会、二日目の分科会、そして交流会後の被災地域の見学と、話す事は尽きません。

全体会についての報告では、パネリストの二人からの話、特に震災の恐ろしさや、それから一年半復興に向けて頑張ってきたこと、そして吉田敬一教授の「政治を変えることが復興への一番の近道」といった言葉が特に

印象的でした。二日目の分科会では法律やサービス業についてなど、それぞれが参加した内容を語りあい、「多くの人の話が聞けて参考になった」「本当に勉強になったし、楽しかった」といった感想が出されました。報告を聞いて、全国交流会には参加できなかった方からも、「本当に参加したかった」との声も出るなど、次につながる報告会でした。

